

ぐるぐる

part 2 思わず微笑むカラクリ大全

人間の目の不思議を存分に味わえる 北岡明佳 / 錯視デザイン

おそらく、このページを開いた途端に感じてもらえただろう。あちこちでぐるぐると渦巻きが回転して見えることを。これは心理学者の北岡明佳氏による、錯視デザインの代表作「蛇の回転」だ。

錯視とは、色相対比、色同化、色拡散、膨張色や収縮色、進出色や後退色など、環境によって色の見え方が変わることを。錯視デザインとは、その理論を応用して図形化したグラフィックのことを言う。

北岡氏が取り組むのはあくまでも錯視の研究だ。「自分が被験者となり、錯視の予備実験をして、その成果を作品としてまとめるのが目的」と言う。しかし「錯視量の多い図形を求める（錯視図形の最適化を行う）だけで、美術のようにするのが不思議な魅力」とも言う。

これまでに北岡氏はオブアートと見紛うかのような、鮮やかな錯視デザインを数多く発表してきた。それらを眺めるたびに、人間の目とはつくづくだまされやすいものだと実感する。実際には動いていないものが、動いて見える。不思議な現象ではあるが、それによってわずかな興奮を味わえることは確かだ。

「蛇の回転・紫」
©Akiyoshi Kitaoka 2007
©KANZEN



北岡明佳
「トリック・アイズグラフィックス」
カンゼン / 1974円